

論文の査読・審査基準

本会の論文の査読は、ダブルブラインドで行い、受け付けた投稿論文について、編集委員会でその内容を審議し、編集委員会が委嘱した2名以上の査読者に見解を諮問した上で、その採否および掲載番号を決定する。基本的には、以下に該当する場合は、修正を求めることとする。ただし、大会・例会の抄録、症例の要旨については、各担当委員会で査読を行う。

1. 本会の投稿要領、症例報告マニュアルに当てはまらないもの。
2. 論文内容に矛盾や著しい論理の偏り、飛躍があるもの。
3. 本文中に文意の通じない箇所や意味不明な用語の部分が多いもの。
4. ヒトを研究対象としているにもかかわらず、研究倫理審査を受けていないもの。

日本臨床矯正歯科医会雑誌 用語例

1. 論文は平仮名、現代仮名遣い、常用漢字、数字はアラビア数字を用いて明瞭に書いてください。
2. 冗長な文章はできるだけ簡潔にし、句読点が入らないもの、3つ以上の sentence が一つになった「悪文」は、文章を区切って、誤解を生まない文章にしてください。「てにをは」も再度ご確認ください。
3. 「第1, 第一」, 「2次, 二次」, などはアラビア数字、漢数字のどちらを用いても差し支えありませんが、横書きの抄録ですので数字は算用数字で統一することが原則です。ただし、菌種を示す場合（第一小白菌, 第二大白菌など）は漢数字を用いてください。
4. 和訳しにくい用語以外は日本語で表記してください。
5. 文中でカタカナ表記と英語表記が混在する場合は、どちらかに統一する。（例）ヘッドギアと headgear
6. 欧語はすべて原綴りとし、人名、固有名詞、略語、とくに慣用されているものは大文字で始めてください。
7. 普通名詞は文頭にあるときのみ大文字で始めますが、文中では大文字を使用しないでください。
8. 凡ゆる、或いは、如何に、凡そ、及ぶ、且つ、即ち、是非、夫々、其の、為、因みに、何処、殆ど、先ず、稀に、勿論、以って、故になどの用語はひらがなで統一してください。
9. 商品名は用いず、一般名で表記してください。製品の比較等の研究等で商品名で表記せざるを得ない場合は、必ず利益相反（COI）について言及を行ってください。
10. 矯正歯科用語として一般的に使用されている略号には「.」を付けない。
（誤）F.M.A. （正）FMA
11. 学術的文章ですので、未定義もしくは学術用語ではない略語（著者や流派の造語など学術用語集にのっていないもの）が使われていないか確認してください。また、初出の時は spell out して下さい。
（誤）L.A. （正）lingual arch
12. 英語表記は、文頭のみ大文字で始まり、文中では名詞でも小文字で表記する。
（誤）Cervical Headgear を使用して Bite Raise を行った。
（正）Cervical headgear を使用して bite opening を行った。
（歯科矯正学専門用語集によると 咬合挙上は bite opening と記すことになっている）
（参考 bite raising plate 咬合挙上板, bite raising splint 咬合挙上副子）
ただし、「診断と治療方針」で列記されている場合は大文字で続ける。（例）Skeletal 2, Angle Class II div. 1, High angle case
13. Arch length discrepancy の+と-は必ず記載する。程度はmm単位で表示し、歯牙排列のスペースが不足する場合は（-）、同スペースが余る場合を（+）とする。Overjet, overbite についても同様に+と-は必ず記載する。
14. 参考文献は出現順にソートしてください。

15. 使用する学術用語は、歯科矯正学専門用語集（日本矯正歯科学会編）や日本歯科医学会学術用語集（日本歯科医学会編）を参考にしてください。また、顎変形症と顎関節症に関する用語は、顎変形症学会と顎関節学会が用語統一を行い、各学会雑誌に掲載されていますので、ご参照ください。

以下に代表的な例を示します。（平成 28 年 10 月時点）

	望ましくない	望ましい	解説
人名	Mc namara	McNamara	半角スペースを入れない
		Angle, Nance, Hawley, Spee, Le Fort, Calvin S. Case など	人名の始まりは大文字で
	Nance holding arch	Nance's holding arch Nance のホールディングアーチ	英語表記に人名が付く場合には「s」を付ける（Angle 以外）
	Hellman dental age	Hellman's dental age	
	Angle's class II (class I, class III)	Angle Class II (Class I, Class III)	

現症他	年齢	年齢	
	11 才 5 カ月, 5 ヶ月, 11y 5 m	11 歳 5 か月	数字は半角文字を使用 月が一桁の場合は前に半角スペース
	2 年 11 ヶ月, 2 年 2 ヶ月	2 年 11 か月, 2 年 2 か月	年齢, 治療期間などの表記は「か月」に統一
	1 標準偏差内	1 S.D. 内	
	2nd Phase	2 期, 第二期	
	cross bite (日本歯科医学会学術用語集)	crossbite (歯科矯正学専門用語集)	本会は歯科矯正学専門用語集に従い スペースを入れない
	over jet, over bite	overjet, overbite	半角スペースを入れない
	openbite	open bite	半角スペースを入れる
	scissorsbite	scissors bite	半角スペースを入れる
	レントゲン	エックス線, X 線, エックス線写真, X 線写真	
	側方頭部 X 線規格写真	側面頭部 X 線規格写真	正面に対応して側面とする
	ウ蝕	う蝕, 齲蝕	字体に注意
	in vivo, in vitro	<i>in vivo, in vitro</i>	斜体にする
	歯科矯正 (医)	矯正歯科 (医)	科名または専門医を表す場合

大臼歯関係・骨格分類	Angle's class II (class I, class III)	Angle Class II (Class I, Class III) (malocclusion) アングル I 級, アングル II 級 I 類, アングル II 級 2 類, アングル III 級 Angle Class I, Angle Class II Div. 1, Angle Class II Div. 2, Angle Class III	アングル分類が英語表記の場合, 「Angle's」ではなく「Angle」のみに 留める。また class II などの分類部分 も文中でも大文字表記をする。(日本 歯科医学会学術用語集)
	大臼歯関係は Angle II 級であった。	大臼歯関係は II 級であった	Angle 分類は不正咬合分類であること に注意。しかし大臼歯関係を示す 場合に慣用的に使われているので, 大臼歯関係と明示し, Angle を外し て使うものは, 本会は可とする。
	Angle class I の獲得を目標とした。	大臼歯関係 I 級の獲得を目標とした。	
	skeletal 2 (1, 3)	skeletal Class II (Class I, Class III)	(日本歯科医学会学術用語集)
	skeletal class 2 (1, 3)	skeletal 2 (1, 3)	skeletal の分類はヨーロッパ流 (アラ ビア数字で class が付かない) と 米国流 (ローマ数字で class が付く) があるが, どちらかに統一
	skeletal II (I, III)	skeletal class II (Class I, Class III)	
	骨格性 3 級 (1, 2)	骨格性 III 級 (I 級, II 級)	
	骨格性反対咬合 (症例)	骨格性下顎前突 (症例)	
	その他の骨格の形態を示す用語	ハイアングル症例, high angle case	
		ローアングル症例, low angle case	
	dolichofacial (pattern), mesio facial type, brachyfacial pattern	バイオプログレッシブの骨格分類は 文中でも大文字表記をされる方が多 いが歯科矯正学専門用語集に従い小 文字表記にする。	

解剖	歯牙, 歯牙の移動	歯, 歯の移動	
	歯齦	歯肉	
	齦頬移行部	歯肉頬移行部, 歯肉歯槽粘膜境	
	頤	オトガイ	
	頬側	頬側	字体に注意
	頸部	頸部	字体に注意
	第1大臼歯, 第2大臼歯	第一大臼歯, 第二大臼歯	
	智歯	第三大臼歯	
解剖	習慣的咬合 (位)	習慣性咬合 (位)	
	萌出	萌出	字体に注意
	彎曲	彎曲	字体に注意

術式	Ext.	抜歯	
	歯を抜歯	歯を抜去	4の抜歯は可 (歯式なので)
	SSRO, BSSRO, IVRO	sagittal split ramus osteotomy; SSRO 《以下 SSRO と略す》, bilateral sagittal split ramus osteotomy 《以下 BSSRO と略す》, intraoral vertical ramus osteotomy 《以下 IVRO と略す》	最初の記述時には略さない
	仮骨延長 (法), 顎骨延長 (法)	骨延長 (法)	
	下顎枝矢状分割咬合改善術	下顎枝矢状分割法 (術)	
	前方部歯槽骨切り	前歯部歯槽骨切り	
	全上下顎同時移動術	上下顎移動術	
	配列	排列	

装置	蠟着	ろう着, 鑲着	
	018" × 025", 016" roundwire	.018 × .025, .016 round wire	ワイヤーサイズの表記は, 頭に小数点をつけ, 桁を間違えず, 「"」のインチ表記をしない,
	roundwire	round wire	半角スペースを入れる
	bi helix	バイヘリックス, bi-helix	ハイフンを付ける
	quad helix	クワドヘリックス, quad-helix appliance	ハイフンを付ける
	Lingual Arch	lingual arch	小文字
	ヘッドギア, head gear	ヘッドギア, headgear	半角スペースを入れない
	FKO	アクチバートルまたはアクチベーター	FKO は機能的顎矯正法, その装置 (第三版歯科矯正学)
	フレンケル・アプライアンス	Fränkel 装置またはフレンケル装置	歯科矯正学専門用語集
	ビムラー	Bimler のアダプター	歯科矯正学専門用語集
	マルチブラケット・アプライアンス	マルチブラケット 《矯正》装置	日本歯科医学会学術用語集
		class II elastics, class III elastics, vertical elastics, cross-elastics	c は小文字
	ミニスクリュー, インプラントアンカー	歯科矯正用アンカースクリュー	日矯学会医療問題検討委員会
	SMAP, アンカープレート	歯科矯正用アンカープレート	日矯学会医療問題検討委員会
	bonding retainer	fixed retainer, bonded lingual retainer	
	クリヤリテーナー, クリアーリテーナー	クリアリテーナー	リテーナーは補綴用語
	Essix リテーナー	クリアリテーナー, invisible retainer	商品名は入れない
plate type retainer	Hawley type retainer, Begg type retainer, wraparound retainer, circumferential type retainer	具体的装置名を記載	
wrap around	wraparound		

注) 《 》内は, その前の語または文字と適宜に置き換えて良いものを示す。

投稿要領

1. 本会誌は歯科矯正学の進歩、発展をはかることを目的としており、歯科矯正学および関連分野の論文などを掲載するものとする。論文は「原著」、「臨床論文」、「総説」、「症例報告論文」、「クリニカルヒント」、「資料」、「報告」、「その他」に分類する。すべての論文は本投稿要領に準じて作成するものとし、原著および臨床論文、症例報告論文に関しては付記を参考にする。
2. 1. の論文種別は下記のとおりとし、投稿時に著者が選択し、査読の上、委員会で決定する。
 - 1) 原著：独創性に富み、主張が明確かつ十分な新知見を認め、研究目的、方法、結果、考察、参考文献など、論文としての形式が整っているもの。
 - 2) 総説：ある特定のテーマに関して、1つまたはそれ以上の学問分野における知見を多面的に広く概観したもの、あるいは、最近の発展・問題点を中心に解説し考察したもの。
 - 3) 臨床論文：原著のような新知見はないが、臨床における知見（複数の症例にわたる報告、装置の工夫など）を取りまとめ、原著と同様、論文としての形式が整っているもの。
 - 4) 症例報告論文：矯正歯科治療における稀有な症例や独特な治療法、また、通常と異なる転帰をとった症例など、臨床的に意義のある報告論文で、本会の症例報告の形式に従ったもの。
 - 5) クリニカルヒント：論文の形式をとっていない、矯正歯科臨床において意味のある著述や提言で、会員およびスタッフにとっての診療のレベルを向上させるような示唆を含むもの。
 - 6) 資料：矯正歯科学の発展において、臨床や研究の現場において何らかの示唆をもたらす、資料的価値のあるもの。
 - 7) 報告：本会の活動報告、大会報告、例会報告等にあたり、編集委員会より依頼し、掲載するもの。
 - 8) その他：上記に含まないもの。
3. 本誌は年2回、1月、8月に発行する。
4. 筆頭著者は本会正会員または準会員に限るが、準会員が筆頭著者の場合には、1名以上の正会員が共著者であることを要する。但し理事会が認めたものはその限りではない。著者が非会員の場合はそれを明記する。筆頭著者が正会員以外の場合には、本会の依頼論文を除き、筆頭著者は本会の定める投稿料を別途支払う。
5. 投稿論文は他誌に未発表のものに限る。本誌への掲載を受理された論文は日本語または他の言語を用いて、同じ形と内容で他誌に発表する場合には理事会の同意を必要とする。
6. 論文掲載にかかる費用については下記のとおりとする。
 - 1) それぞれの論文は原則として本誌(A4サイズ)で下記のページ以内とする。通常、文字のみで1ページは約2,000字（原稿用紙5枚程度）になる。
 - 2) 所定のページ以内の組み版は本会負担とするが、それ以外の超過分については全額著者負担とする。なお発送費も著者負担とする。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
 【原著】【報告】-----8ページ
 【臨床論文】【総説】【症例報告論文】【資料】【その他】-----6ページ
 【クリニカルヒント】-----4ページ
 - 3) 別刷りに関しては、論文掲載時に希望があれば、会員の原著、本会依頼論文に限り、50部無償で提供することができる。ただし、編集委員会が認めた場合はその限りではない。
 そのほかの場合は、論文掲載時に著者負担で申し込むことができる。
7. 論文はできるだけ簡潔に記述されたもので、平仮名、常用漢字、現代仮名遣いを用い、“である”調で書く。固有名詞、特殊な用語以外は、原則としてカタカナ表記とする。計量単位は単位記号を使用する。句読点は（.）（,）を使用する。
8. 論文はパーソナルコンピューターにて、ソフトはワード（Ver. 2009以上）、MS明朝体のフォントを使用し、A4判用紙に40字×20行（800字）、10ポイントの文字で印字する。
9. 論文には表紙を付け、論文表題、著者名、キーワード（5語以内）、論文表題の英訳、著者名のローマ字表記（姓は大文字）、英文キーワード（5語以内）、ランニングタイトル（40文字以内）、所属支部名、著者所属機関、別刷り請求先を順に記載し、本文の前には要約（300～600字）を付ける。
10. 参考論文は以下の形式で表記する。
 - 1) 引用文献は引用順に列記し、邦文、欧文の区別なく、本文中の氏名または文章の末尾に一連番号を付け、本文中の該当箇所にも右肩にアラビア数字で片括弧をつけて示す。
 - 2) 文献の書き方は、雑誌のとき、著者名論文表題雑誌名（略誌名でよい）西暦発行年巻数（号数不要）通巻ページ（最初のページ最後のページ）とし（記載例参照）、単行本のとき、著者名章題名編者名

□書名□版□発行地□発行所□西暦発行年□引用ページ（最初のページ□最後のページ）□の順とする（記載例参照）。

- 3) 著者名は、著者が4名以下のときは全員、5名以上のときは初めの3名までを書き、あとは「他」または「et al.」と省略する。欧文の場合には、著者の姓、名前の頭文字の順に書き、共著者があれば、最後の著者名の前に接続詞（and, und, et など）を入れる。この場合&は用いない。
- 4) 学会発表の抄録を引用文献として記載しない。

記載例（雑誌）

- 1) ○田○, ○原○也, ○来○史, 他. ウサギ大脳皮質咀嚼野電気刺激により誘発された咀嚼様顎運動時の作業側下顎頭運動と咬筋・外側翼突筋の活動. *Orthod Waves-Jpn Ed* 2007 ; 66 : 123-133.
- 2) Miller, A. J, Vergervik, K., Chierici, G. Experimentally induced neuromuscular changes during and after nasal airway obstruction. *Am J Orthod* 1984 ; 85 : 385-392.

記載例（単行本）

- 3) 榎 恵. 歯科矯正学. 第2版. 東京：医歯薬出版, 1982 : 70-75.
- 4) Graber, TM. *Orthodontics, Principles and practice*, 2nd ed. Philadelphia, London : WB. Saunders, 1967 : 119-121.

11. 図および表

- 1) 図および表は、A4判用紙を用いて1枚ずつ作成し、表または図ごとに通し番号（表1, 表2, …）（図1, 図2, …）を付ける。この際、写真は図として通算する。表および図の用紙1枚ずつに、その右下端に著者名（共著のときは筆頭者名）と表または図番号を必ず記す。
- 2) 図および表の本文挿入箇所は本文欄外に朱書きする。
- 3) 図および表にはタイトル（ゴシック体で印刷する）または説明文を付ける。タイトルにはピリオドを付けない。邦文を原則とする。本文を読まなくても内容を理解できる程度のものが望ましい。表のタイトルは表の上に記すが、それ以外の説明は表の下に記す。図のタイトルおよび説明文は図の下におくか、別紙としてまとめて図に続けて添付する。
- 4) 本文とは別のページに写真などを図版プレートとして掲載する場合、その説明文は原稿の最後「付図説明」として一括して掲げる。
- 5) 顔面写真（正貌・側貌）：初診時、動的治療終了時、最終資料採得時（顔写真には「目隠し」を施して、その人物が特定できないよう配慮されたい）・口腔内写真または石膏模型写真（正面、左側面、右側面、上顎咬合面観、下顎咬合面観）：初診時、動的治療終了時、最終資料採得時・パノラマX線写真：初診時、動的治療終了時、最終資料採得時・側面頭頸部X線規格写真の重ね合わせ：全体、上顎、下顎（第1期治療開始時（黒）・第1期治療終了時（橙）・第2期治療開始時（青）・第2期治療終了時（赤）・保定中または保定後（緑））・側面頭頸部X線規格写真分析表：（計測項目）SNA, SNB, ANB, FMA, FMIA, UI-SNなど日本矯正歯科学会認定医申請にて行う分析項目を記載し、他に必要な項目があれば追加しても構わない。
12. 写真はデジタルデータまたはプリントで投稿し、トリミングの指定は別にプリント、またはコピーしたものに指示する。デジタルで投稿する場合はレイアウトした写真データのほかに、デジタル写真の場合は1MB～2MB、スキャナーで写真を取り込む場合は300～400dpiの元の画像データをTIFF, JPEG, EPS, BMP形式でCD-RまたはDVD-Rにて提出する。
13. 編集委員会の査読後の最終原稿については、印刷した原稿とともにデジタルデータ原稿も提出する。メディアはCD-RまたはDVD-Rを用い、アプリケーションはワード、エクセル、パワーポイントを用い、ソフトのVersionを明記する。なお、作業時の事故による損傷も考慮し、バックアップをとっておく。
14. 投稿論文には受付通知を出す。本投稿要領に当てはまらないものは受け付けない。
15. 投稿論文の内容について編集委員会で審議し、必要に応じ編集委員会が委嘱した2名以上の査読者に見解を諮問したうえで、その採否、論文種別および掲載巻号を決定する。受理論文は論文掲載予定証明書を発行する。受理論文は論文種別および受理された日付順に掲載する。掲載にあたっては受付日付および受理日を印刷する。
16. 別刷りの作成および発送費は著者負担とする。但し理事会が認めた場合はその限りではない。
17. 本誌に掲載された著作物の著作権（複製権、公衆送信権）は本会に帰属するものとする。本会著作物の転載にあたっては、「転載許可申請書」を正副2部、本会編集事務局に送付し、あらかじめ許可を得たうえで使用すること。送付された申請書は、委員会で審議のうえ、転載を認める場合、1通は事務局で保管、1通は申請書に本会の捺印をしたものを折り返し送付する。また、引用に関しては適用引用（著作権法第32条）の範囲内において、引用者の責任で、適切な引用処理を行う

- こと。上記に当てはまらない引用の場合は、転載の場合と同様、「転載許可申請書」を提出し、あらかじめ許可を得て使用すること。転載物の出所明示は著作権法第48条に基づき行うこと。また、転載物の再転載は行わないこと。
18. 原稿は、原本とコピー2部（本文・図表とも）を編集委員会指定の宛先に書留もしくはレターパックで郵送する。
 19. 投稿論文は、ヒトを対象とする場合はヘルシンキ宣言（本会ホームページに掲載）を遵守し、その精神に基づいて「倫理的に行われたこと」、かつ「患者あるいは被験者との間にインフォームドコンセントがかわされたこと」の明記を必要とする。また、動物実験は「動物実験に関する所属研究所機関の指針」に基づいて倫理的に行われた旨の明記を必要とする。
 20. ヒトを対象とする臨床研究の場合は、ヘルシンキ宣言に従い、全員の同意文書と研究倫理審査委員会審査結果通知書の写しを添付するのが望ましい。なお、投稿原稿の「方法」の項に承認した研究倫理審査委員会の名称および承認番号を明記する。
 21. 投稿論文の内容について、利益相反に関する事項がある場合は、原稿中（文献の前）に該当事項の詳細を記載する。利益相反に関する事項のない場合も、同じ場所に「論文の内容に関し、利益相反に関することはなし」等を記載する。
 22. 共著者がいる場合は、前述の19～21のことについては、代表著者が全員に確認をしたうえで、代表著者の責任において記載をする。
 23. 原稿受付は第1号 4月30日、第2号 9月30日とする。（消印有効）

付 則

1. 本投稿要領は平成12年11月30日から施行する。
2. 本投稿要領は平成17年12月16日から施行する。
3. 本投稿要領は平成22年2月1日から施行する。
4. 本投稿要領は平成24年6月13日から施行する。
5. 本投稿要領は平成27年8月20日から施行する。
6. 本投稿要領は平成29年1月19日から施行する。
7. 本投稿要領は令和元年9月19日から施行する。
8. 本投稿要領は令和6年1月11日から施行する。
9. 本投稿要領は令和6年11月14日から施行する。
10. 本投稿要領は令和7年11月13日から施行する。
11. 本投稿要領は理事会の審議のうえ変更できる。

付記

論文の作成においては、令和6年8月発行の「投稿の手引き」を参考のこと。

投稿申込票

日本臨床矯正歯科医会雑誌
申込日 年 月 日

*受付日	年 月 日	*審査結果	受 保 否
*修正稿受付日	年 月 日	*掲載	卷 号

論文種別：() 原著, () 臨床論文, () 総説, () 症例報告論文, () クリニカルヒント,
() 資料, () 報告, () その他

表 題：

英文表題：

著 者 名：非会員を含まず (), 含む () (*で示す)

著者名 (英文)：

著者所属支部：

準会員, 非会員を含む場合はその所属：(著者名との関連がわかるように記載)

連 絡 先：氏名

住 所：〒 -

TEL：

FAX：

E-mail：

- ・投稿希望者は、上記申込票に必要事項をご記入の上、投稿原稿を同封し、編集事務局までお申し込みください。
- ・投稿申込締切日は、雑誌発行年の1号は4月末、2号は9月末までとします。
- ・投稿申込者に対して、編集委員会より掲載予定巻号、原稿締切日などについてご連絡します。

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会編集事務局：〒170-0003

東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル501
公益社団法人日本臨床矯正歯科医会編集事務局
担当：薄 井 暁 広
TEL：03-3947-8894
FAX：03-3947-8073
E-mail：hensyu8@kokuhoken.or.jp

投稿チェックリスト

※投稿時に同封のこと

投稿原稿が日本臨床矯正歯科医会雑誌の「投稿要領」に沿ったものであるかを確認されて、該当する欄にチェックして下さい。

著者チェック

- 投稿申込書で希望する論文の種類（原著，臨床論文，総説，症例報告論文，クリニカルヒント，資料，報告，その他）を選択していますか。
- 原稿の書式は投稿要領に沿っていますか。
- 準会員が筆頭著者の場合には1名以上の正会員の共著者がいますか。
- 原稿の枚数（図・写真・表を含む）は規定内になっていますか。
- キーワードは揃っていますか。
- 文献は所定の記載方法で引用の順番になっていますか。
- 写真・図・表の挿入箇所は明示してありますか。
- ヒトを研究対象としている場合，研究倫理審査を受けていますか。
- 投稿申込票・誓約書・利益相反に関する書類・同意書（臨床論文・症例報告論文の場合）・表題・要約・本文・文献・図表・図表の説明・脚注 の順になっていますか。
- それぞれオリジナルの他に2部のコピーを添えてありますか。

原稿枚数（表紙・文献・脚注を含む）	枚
図・写真	枚
表	枚
別刷り希望部数（50部単位）	要（部） 不要

著者氏名： _____ 記入年月日： 年 月 日

年 月 日

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会 殿

誓 約 書

私は、次の誓約のもとに下記論文（以下「本著作物」）の日本臨床矯正歯科医会雑誌への掲載を申し込みます。

1. 私は、本著作物が他誌に未投稿であること及び本誌に掲載されないことが明らかとなるまで本著作物を他誌には投稿しないことを誓約します。
2. 私は、私が本著作物の著作者であり本著作物の著作権を保有していることを誓約します。私は、本誌編集委員会が掲載に際して必要と判断する変更、削除その他の修正を加えることをここに承認します。
3. 私は、本著作物が第三者の著作権又は出版権を侵害するものではないこと及び第三者から本著作物の内容に関して使用許諾を受けている場合には、使用許諾書の写しを全て本誓約書に添付していることを誓約します。
4. 私は、本著作物の内容が第三者の権利を侵害するものではないこと及び万一その内容が第三者の権利を侵害することとなった場合は、私が全ての責任を負担することを承諾します。この責任は、本誌編集委員会により本著作物に変更、削除その他の修正を加えられた場合であっても同様とします。
5. 私は、本著作物の本誌への掲載が受理された場合、本著作物の著作権を貴医会に譲渡することを承諾します。譲渡される著作権には、著作物を翻訳・翻案する権利及び二次的著作物の利用に関する権利等本著作物に関する全ての権利が含まれます。
6. 私は、本著作物に関する情報をオンラインを含む検索サービス等に提供することを承諾します。
7. 私は、本著作物に起因又は関連して生じる全ての紛争を東京地方裁判所を専属的法廷として解決することに同意します。

題名.....
.....

著者 印 印 印
..... 印 印 印
..... 印 印 印

*注 著者が複数の場合は全員の署名をしてください。

*注 ご投稿の際には必ず原稿に添付してください。

様式1

本会の学会誌等で発表を行う著者の利益相反（COI）申告書

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会

会長 殿

申告日 年 月 日

著者氏名

(共著者を含む)

論文題名

著者全員について、投稿時から遡って過去2年以内での発表内容に関する企業・組織または団体との利益相反について記載してください。

項目	金額など	該当の状況	該当の有る場合 著者名：企業・組織または団体名等
役員・顧問職	100万円以上	有・無	
株式の利益	利益100万円以上 全株式の5%以上	有・無	
特許権使用料など	100万円以上	有・無	
講演料など	50万円以上	有・無	
原稿料など	100万円以上	有・無	
研究費	200万円以上	有・無	
奨学寄付金 (奨励寄付金)	200万円以上	有・無	
寄附講座	所属	有・無	
その他報酬	5万円以上	有・無	

(本申告書は、申告の日から2年間保管されます)

筆頭著者氏名 (自署)

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会

備考

役員・顧問職	1つの企業・団体から年間100万円以上
株式の利益	1つの企業から年間100万円以上あるいは株式5%以上を保有
特許権使用料など	1つにつき年間100万円以上
講演料など	1つの企業・団体から年間合計50万円以上
原稿料など	1つの企業・団体から年間合計50万円以上
研究費	治験、受託研究、共同研究などについて、1つの企業・団体から支払われた総額が年間200万円以上
奨学寄付金 (奨励寄付金)	奨学寄付金などの総額1つの企業・団体から、申告者個人または申告者が所属する講座・分野あるいは研究室の代表に支払われた総額が年間200万円以上
寄附講座	企業などが提供する寄附講座企業や団体が提供する寄附講座に所属している場合
その他報酬	旅費、贈答品などの受領1つの企業・団体から年間5万円以上 (研究とは無関係な旅行・贈答品等も含む)

矯正歯科に関わる診療記録使用の同意についてのお願い

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会

日本臨床矯正歯科医会では、会員に対して臨床矯正歯科医療の質の向上を担保するために定期的に学術大会や学会誌などで治療例を発表することを義務つけております。

つきましては、_____様（以後、貴方と称す）の矯正歯科診療に関する記録（矯正歯科治療の結果・効果、診療記録、歯列模型、写真およびレントゲンフィルム等の画像一切を含む）について、次のとおり貴方の同意の上で使用させていただきたくお願いを申し上げます。

1. 使用機会

日本臨床矯正歯科医会の学術大会、例会および学術雑誌（電子化されたものを含む）などにおける各種発表（講演、口頭発表、論文発表、パネル展示、症例報告、症例展示等）、ならびに同学術雑誌のオンラインを含む文献検索サービス等

2. 使用方法

貴方の氏名・生年月日（年齢は使用します）・住所等の個人を特定できる資料は使用しませんが、それ以外の記録は、一部を隠して個人が識別できないようにした顔面写真も含め使用をお願い申し上げます。

3. 使用期限

貴方から使用中止のお申し出をいただくまで使用をお願い申し上げます。なお、使用中止のお申し出を頂けば、以後の使用を致しませんが、それ以前に使用したものについては、回収などができない場合がございますのでご了解ください。

貴方におかれましては主治医が治療例として診療記録使用の同意を求めています。お差し支えなければ同意書に署名をお願い申し上げます。なお、個人情報に関しては、個人情報保護法およびその他の関連法令を遵守し、その保護に厳重な注意を払います。

以上、ご不明の点がありましたら担当医に何なりとお尋ねください。

矯正歯科に関わる診療記録使用の同意書

上述文書の内容に従って、私の診療情報が使用されることについて

同意します

同意しません

貴方のお名前 _____

保護者のお名前 _____

矯正歯科医師名 _____

記入年月日 _____年 _____月 _____日